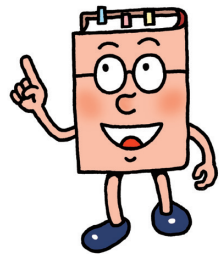


新しい漢字を学ぼう

1

●マゴゾで学ぶ漢字は、16ページから35ページで使われています。

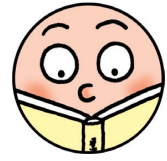


1 — の漢字に気をつけて、次の文を読みましよう。

- ① 切り株につまずき、足の筋をいためる。
- ② 警備の仕組みを簡潔に説明する。
- ③ 弟の手つきはいかにも危なっかしい。
- ④ 会社勤めの骨休めに旅行をする。
- ⑤ 座ぶとんに開いた穴をつくろう。

2 次の文章を読みましよう。

道路にとつぜん穴が開いた。通勤や通学の人たちに危険がないよう、警官が注意をよびかけている。



表現のおもしろさを味わおう

雪わたり

雪わたり その一 (子ぎつねの紺三郎)

雪がすっかりこおって大理石よりもかたくなり、空も冷たいなめらかな青い石の板でできているらしいのです。「かた雪かんど、しみ雪しんど。」

堀内 宮沢
ほりうち みやざわ

誠一 賢治
せいち けんじ

絵 作

お日様が、真っ白に燃えてゆりのにおいをまき散らし、
また雪をぎらぎら照らしました。

木なんかみんな、ザラメをかけたようにしもでびかびか
しています。

「かた雪かんこ、しみ雪しんこ。」

四郎しろうとかん子とは、小さな雪ぐつをは

★ザラメ
いてキックキックキック、野原に出ました。

きびの畑
こんなおもしろい日が、またとあるで

しょうか。いつもは歩けないきびの畑の中
でも、すすぎでいっぱいだった野原の上で
も、好きな方へどこまででも行けるのです。



平らなことは、まるで一枚の板です。そしてそれが、たくさんのお小さな小さな鏡のようにキラキラキラキラ光るので

す。

「かた雪かんこ、しみ雪しんこ。」

二人は、森の近くまで来ました。大きなかしわの木は、枝もつぎまるくらい立派なすき通ったつららを下げて、重そうに体を曲げておりました。

「かた雪かんこ、しみ雪しんこ。きつねの子あ、よめいほしい、ほしい。」

と、二人は森へ向いて高くさげびました。

しばらくしいんとしましたので、二人はも一度さげぼう

として息をのみこんだとき、森の中から、

「しみ雪しんしん、かた雪かんかん。」

と言いながら、キシリキシリ雪をふんで、白いきつねの子が出てきました。

四郎しろうは、少しぎょつとじて、かん子を後ろにかばって、しっかり足をふんばってさげびました。

